

『アジア・アフリカ地域研究』投稿規定

1. 『アジア・アフリカ地域研究』は一年に二度発行され、アジア・アフリカ地域研究に寄与する論文、研究ノート、書評、フィールドワーク便りなどを掲載する。投稿原稿は未発表のものに限り、他の雑誌等への同時投稿は認められない。
2. 投稿原稿は、レフェリーによる審査結果を考慮のうえ、編集委員会が採否を決定する。
3. 原則として使用言語は日本語、英語のいずれかとする。日本語の場合には常用漢字、現代かなづかいを用いることを原則とする。特殊な文字および記号の使用については、編集委員会に相談すること。
4. 投稿原稿の長さは、論文（日本語）の場合、400字詰め原稿用紙計算で100枚以内、研究ノート（日本語）の場合は50枚以内。論文（英語）の場合は20,000語以内、研究ノート（英語）の場合は10,000語以内とする。書評とフィールドワーク便りは、日本語の場合10枚以内、英文の場合は2,000語以内で執筆することとする。なお、上記の枚数制限は図・表・写真を含むものとする。
5. 英語の原稿を投稿する場合には、英文校閲をおこなったうえで、完全な英文にして提出すること。
6. 論文および研究ノートには、使用言語にかかわらず200語程度の英文要旨を付すものとする。
7. 投稿原稿は、オリジナル・ファイルとそれをPDF化した電子ファイルの両方を、E-mailに添付して送付すること（図表は別ファイルとすること）。なお、ファイル名は、投稿年月日と主題目のみにし、著者名は入れないこととする。
8. 論文と研究ノートについては、投稿原稿とともに「投稿申込用紙」を送付すること。投稿申込用紙は下記のページからダウンロードできる。〈<https://www.asafas.kyoto-u.ac.jp/publications/notice/>〉
9. 図は、浄書し、そのまま印刷可能なものに限る。写真、図、表などは、希望の挿入箇所を指定すること。
10. 原稿料の支払い、掲載料の徴収はおこなわない。また論文および研究ノートに関しては別刷り50部を著者に進呈する。
11. 本誌に掲載された論文などの著作権は、本誌編集委員会に帰属する。原稿投稿者は原稿受理後も、本誌が刊行されるまでは、いかなる形であれ公開しない。また、ウェブ上の公開は、本誌ウェブサイトでもフルテキストが公開された後、そのテキストへのリンクを明示する形でおこなうこととする。
12. 本誌に掲載された論文等を他所に転載、翻訳などする場合には、編集委員会の許諾を得ること。
13. 執筆要領は投稿規定の次に示してあるが、変更される場合があるので、最新情報に関しては本学研究科ホームページを参照するか、編集委員会まで問い合わせること。
日本語による投稿 〈<https://www.asafas.kyoto-u.ac.jp/publications/notice/>〉
英語による投稿 〈<https://www.asafas.kyoto-u.ac.jp/en/publications/notice/>〉
14. 投稿先および問い合わせ先は次のとおり。
〒606-8501 京都市左京区吉田本町（総合研究2号館4階）
京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科
『アジア・アフリカ地域研究』編集委員会
電話：075-753-7161（編集室）
E-mail: editor@asafas.kyoto-u.ac.jp

『アジア・アフリカ地域研究』執筆要領（日本語による投稿）

日本語による投稿の執筆要領を以下に示す。ここに示した執筆要領と異なる方法・様式を希望する場合は、編集委員会まで問い合わせること。また、その他不明な点についても編集委員会まで問い合わせること。

1 投稿原稿の構成

論文および研究ノートは、題目、英文題目、英文要旨（200語程度）、本文、引用文献リスト、図表などからなるものとする。なお、日本語要旨（400字程度）を付すこと。

書評には、評者名、書名（副題）、著者名、版数、出版地、出版社、刊行年、総ページ数を明記すること。

フィールドワーク便りは、題目、英文題目、著者名、本文、引用文献リスト、図表などからなるものとする。

2. 表記の原則

用語、固有名詞等の表記の統一に留意する。各国の国名、地名、人名などは、漢字による表記が慣例になっている場合を除き、原則としてカタカナ書きにすること。なお、一般化していない固有の名称については、初出に限りその原語（アルファベット・イタリック体表記）をカッコ内に付記する。

原稿中の年号、月日およびその他の数字は、原則としてアラビア数字を用いる。ただし万以上の数字には、万、億、兆などを用いる。概数の場合は、十数人、十数年などとする。なお、年号は原則として西暦とする。それ以外の暦法を使用する場合は、西暦をカッコ内に付記する。

句読点は、（、。）ではなく（、.）を用いる。

3. 引用文献の表記

1) 引用文献や参考文献の詳細な書誌情報は、原則として脚注には記さず、原稿の末尾に「引用文献リスト」として一括して載せる。

2) 本文および注の中で、引用または参照のために文献を挙げるときは、著者名、発行年、（必要なら）ページ数を []（角カッコ）し、本文中に入れることとする。

[例] [Tabata 1978: 147]
. [吉田 1975a: 15–18]
. [坪田 1979: Ch. IV]
. [福山ほか 1979]
. [Fukuyama *et al.* 1979]
. [大前 1987; Johnson 1998]
. [Robertson, H. 1979; Robertson, S. 1998]

なお、本文中に著者名を入れる場合は、発行年、（必要なら）ページ数を []（角カッコ）し、本文中に入れることとする。

[例] 山本 [1988: 17]

3) 同一の文献を繰り返し引用や参照する場合にも、そのつど上に示した文献表記をすること。前掲書、同上書、*ibid.* や *loc. cit.* などは使わない。

4) 注、引用文献などで自著に言及する場合、「拙著、拙稿」等、執筆者が明らかになる表現は使用しないこと。

4. 引用文献リスト

本文および脚注において引用または参照した文献は、すべて原稿の末尾にまとめ、下記の方法により記入する。

1) 一般原則

文献表示の順

a. 単行本, 多巻本など

- (1) 著者の姓・名 (著者が複数の場合は, 全員の氏名を掲げる)
- (2) 発行年 (西暦)
- (3) 『書名』シリーズ名 (カッコ書きしない)
- (4) 発行地名 (外国語文献の場合のみ記入)
- (5) 発行所名

b. 雑誌, 論文, 新聞など

- (1) 著者の姓・名
- (2) 掲載紙誌の発行年 (西暦)
- (3) 論文タイトル
- (4) 掲載紙誌名
- (5) 巻・号
- (6) ページ

リストの順

- a. 著者の姓のアルファベット順
- b. 同一著者による複数の著作は年代順
- c. 特殊語による文献, または特殊文献を別途に取り扱うことも可

2) 日本語文献の記載例

a. 単行本

[例] 井筒俊彦. 1992. 『イスラーム哲学』井筒俊彦著作集 5. 中央公論社.

b. 論文

単行本所収論文

[例] 菅原和孝. 1999. 「現代のブッシュマン—定住化と再移住」川田順造編『アフリカ入門』新書館, 135-154.

雑誌論文

[例] 倉沢愛子. 1998. 「インドネシアの村落開発における情報伝達—『クロンプンチャピル』を中心に」『アジア経済』39(9): 71-90.

c. 翻訳文献

[例] カステル, マニユエル. 1997. 『都市とグラスルーツ—都市社会運動の比較文化理論』石川淳志監訳, 吉原直樹・安江孝司・橋本和孝・稲増龍夫・佐藤健二訳, 法政大学出版局.

d. 新聞

[例] 『毎日新聞』2000年3月22日(東京版朝刊)「米・インド関係—両国首脳交流拡大の共同声明に署名」

e. 文書

[例] 齊藤良衛. 作成年不詳. 「日独伊同盟条約締結要録」外務省記録B.1, O.O./X3-7.

f. オンライン文献

[例] Social Watch. <<http://www.chasque.apc.org/socwatch/index.htm>> (1997年12月15日)

3) 外国語文献の記載例

a. 単行本

[例] Burke, T. 1996. *Lifebuoy Men, Lux Women: Commodification, Consumption, and Cleanliness in Modern Zimbabwe*. Durham & London: Duke University Press.

b. 論文

単行本所収論文

[例] Obeyesekere, G. 1980. The Rebirth Eschatology and Its Transformations: A Contribution to the Sociology of Early Buddhism. In Wendy D. O'Flaherty ed., *Karma and Rebirth in Classical Indian Traditions*. Berkeley: University of California Press, pp. 137–164.

雑誌論文

[例] Ingold, T. 1990. An Anthropologist Looks at Biology, *Man* (N. S.) 25(2): 208–229.

c. 翻訳文献

[例] Bourdieu, P. 1990. *The Logic of Practice*, translated by Richard Nice. Cambridge: Polity Press.

d. 新聞

[例] Techawongtham, Wasant. 2000 (June 23). People made to pay for mistakes, *Bangkok Post*.

e. 文書

[例] NSC 41 1949 (Feb. 28) Record Group 90 (National Archives/Washington, D. C.)

f. オンライン文献

日本語文献の記載例に準ずる。

(2020年9月30日)